

学習のすすめ方		学校名	名張市立南中学校
教科	技術・家庭科 【技術分野】	学年	1
学習目標	<p>生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、持続可能な社会づくりと生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある製品について材料、特徴、長所を生かす工夫などを知ろう ・構想の表し方を知り、構想図を書こう ・材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用しよう ・生活の中の課題を見出し、制作実習を通して課題解決する力を身に付けよう。 		
育てたい力 (評価規準)	知識及び理解	思考・判断・表現	主体的に取り組む姿
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能 ・材料と加工の技術と生活や、社会、環境とのかかわりについての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・実習の態度、提出物(提出期限・内容)、作品評価、定期テスト(小テスト)により総合的に評価を行う 		
使用教材	教科書	開隆堂書籍「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」	
	副教材		
準備物	教科書・ノート		
実習教材	製図用紙、工作用紙、板材 等		
年間学習計画			
考查	学習内容	学習のポイント	
期 末	1. 身の回りの製品を調べよう	(1～4) 教科書を参考にしながら板書を進めていきます。ノートはただ板書を写すだけではなく、説明等で大切だと思ったことも書き込みましょう。 (5) 教科書を参考にしながら学習を進めますが、自分の生活を振り返りながら地域や環境問題について考えを深めましょう。 (6) 製図の基礎・基本を理解することで、構想に必要な基礎的な力をつけることを目標としています。 (7) ダンボールで試作を繰り返しながら、自分のイメージした製作品に近づけていきます。	
	2. 製品に適した材料を考えよう		
	3. 材料の特徴・特性を知ろう		
期 末	4. 製品を丈夫にするための工夫を知ろう	(8～12) 実習の授業では、授業の最初に本時の作業内容の確認、最後に作業のまとめと作業で気付いたことの交流をします。特に作業の途中で気付いたこと、工夫したことがあればノートにメモをする習慣を身につけましょう。 工具の使い方について習得の度合いを授業内でチェックします。 (13) 製作品を評価することで、今後のものづくりに活かします。	
	5. ものづくりと環境について考えよう		
	6. 製品の構想をまとめ図に表そう		
学 年 末 テ ス ト	7. 製作(ダンボールモデル)・グループワーク	(8～12) 実習の授業では、授業の最初に本時の作業内容の確認、最後に作業のまとめと作業で気付いたことの交流をします。特に作業の途中で気付いたこと、工夫したことがあればノートにメモをする習慣を身につけましょう。 工具の使い方について習得の度合いを授業内でチェックします。 (13) 製作品を評価することで、今後のものづくりに活かします。	
	8. けがきをしよう		
	9. 材料を切断しよう		
学 年 末 テ ス ト	10. 部品を正確に加工しよう	(8～12) 実習の授業では、授業の最初に本時の作業内容の確認、最後に作業のまとめと作業で気付いたことの交流をします。特に作業の途中で気付いたこと、工夫したことがあればノートにメモをする習慣を身につけましょう。 工具の使い方について習得の度合いを授業内でチェックします。 (13) 製作品を評価することで、今後のものづくりに活かします。	
	11. 組み立てよう		
	12. 製作品を仕上げよう		
学 年 末 テ ス ト	13. 製作品を評価しよう	(8～12) 実習の授業では、授業の最初に本時の作業内容の確認、最後に作業のまとめと作業で気付いたことの交流をします。特に作業の途中で気付いたこと、工夫したことがあればノートにメモをする習慣を身につけましょう。 工具の使い方について習得の度合いを授業内でチェックします。 (13) 製作品を評価することで、今後のものづくりに活かします。	